

## 2001年度日本気象学会奨励賞受賞候補者の推薦募集

日本気象学会は、研究費・研究環境に恵まれないなかで研究・調査に努められている方を奨励するために、「日本気象学会奨励金」制度を1970年に設けました。その後、小・中・高等学校で地学教育に従事している先生のなかで、特に実践的な気象教育を進めている方も奨励できるよう対象を広げました。1998年に「奨励金」を、表彰に重点を移した「奨励賞」に改めました。引き続き3件程度を表彰します。

日本気象学会奨励賞受賞候補者推薦委員会は、奨励賞受賞者選定規定に基づいて、候補者を理事会に推薦します。つきましては、広く会員からの推薦を募りますので、次の要領によって受賞候補者をご推薦下さい。自薦も歓迎します。なお、候補推薦は、常時受け付けることと致します。本募集は日本地学教育学会にも通知を依頼しています。

2000年12月

### 記

締切：2001年2月28日（水）

送付先：〒100-0004 東京都千代田区大手町1-3-4

気象庁内 日本気象学会事務局気付

奨励賞受賞候補者推薦委員会

用紙：A4判縦、横書き

推薦書および添付資料

1. 研究題目（推薦対象となる研究調査または教育活動の内容を簡潔に示すもの）
2. 受賞候補者氏名、ふりがな、勤務先、職名、連絡先、略歴
3. 推薦者氏名、印、勤務先、職名、連絡先（自薦の場合でも、必ず推薦者を付けること）
4. 推薦理由（1,500字以内）  
（受賞候補者の研究環境（指導者、研究時間、研究費等）について触れること）
5. 研究成果の概要（1,500字以内）  
これまでの研究調査または教育活動に関した出版物、報告、資料等（のコピー）を添付する。

募集概要

1. 気象学・気象技術に関するテーマについての研究・調査、および現場における気象教育の実践、教材の開発など気象教育に関連した研究調査を対

象とする。（研究としての完成度の高さは必要条件ではない）

2. 研究環境（指導者、研究時間、研究費）に恵まれていないことが条件である。従って、大学あるいは研究機関に勤務または在学し、経常あるいは特別研究費の配分を受けて気象学の研究に従事する者は、原則として奨励賞の対象外である。
3. 選考には、過去の調査・研究・実践の経歴およびその内容を重視する。関連学会、関連研究会や、関連機関の調査研究会等に発表または投稿がなされていることは、業績の評価を示す材料として考慮する。
4. 2001年度の奨励賞贈呈は、秋季大会で行う。

1998年までの「奨励金」受領者

(70) 長野 美文, 久保田 効, (71) 山川 弘, 竹内 丑雄, (72) 杉山 清春, 竹内 新, 地迫 良一, 深津 林, 清水 喜允, (73) 加藤 一靖, 小岩 清水, 村松 照男, (74) 矢野 兼三, 内山 文夫, 櫃間 道夫, (75) 岸田 和博, 鈴木 和史, (76) 山田 幹夫, 力武 恒雄, 松村 三佐男, (77) 小形 明, 宮川 和夫, 永沢 義嗣, 佐々木 芳春, (78) 島村 泰正, 伊豆味 正吉, 春日 信, 浦野 弘, (79) 木村 悠, 坂上 公平, 小柴 厚, (80) 山中 博, 若原 勝二, 中井 公太, 横山 博, (81) 細野 正俊, 西本 洋相, (82) 西田 耕造, 山内 博行, 原嶋 宏昌, (83) 田頭 正広, 渡部 浩章, 鈴木 欣也, 丹 英二, 長島 真, (84) 平隆介, 加藤 敏彦, 柴山 元彦, (85) 中田 隆一, 水野 量, 名越 利幸, (86) 大奈 健, 江上 公, 半田 孝, 瀧島 幸市, (87) 入田 央, 三品 博, 榊原 保志, (88) 大野木 和敏, 銘苅 真正, 金城 勝重, 橋本 雅巳, (89) 松本 崇司, 松田 耕治, 塩澤 定道, 有賀 公平, 西銘 宜正, (90) 横田 寛伸, 松村 哲, (91) 榎野 泰夫, 浅野 浅春, 岡田 哲也, 居島 修, (92) 中田 裕一, 川野 浩, 今 勝義, (93) 木俣 昌久, 吉田 洋一, 下畑 五夫, 植田 隆, 古川 善朗, (94) 前田 宏, 石原 昭史, 裏川 一雄, (95) 小沢 英司, 河合 宏一, 中吉 一行, 西岡 佐喜子, (96) 四宮 茂晴, 大鹿 清司, (97) 山下 龍平, 花宮 廣務, (98) 上田

崇裕, 金森 恒雄, 坪田 幸政  
 2000年までの「奨励賞」受賞者  
 (1999) 須田 卓夫, 松浦 健次,  
 (2000) 加藤 廣, 黒良 龍太

日本気象学会奨励賞受賞候補者推薦委員会  
 藤部文昭・岩嶋樹也(担当事務), 河原幹雄,  
 高野 功, 高橋忠司, 名越利幸

## 総会成立に向けての御協力をお願い

常任理事会

2001年5月8日～10日に、日本気象学会春季大会が東京大学にて開催されます。その中日の9日(水)午後には、総会が行われ、予算や事業計画などを含む重要事項が審議されます。

総会は、可能なかぎり多数の通常会員が参加し、学会の在り方や活動をよりよく発展させるために、会員各自の考えを出し合い議論する場です。従いまして、会員の総会への参加は、会員としての重要な権利であり、(強制ではないけれども)義務でもあります。

前回の総会から、「総会の成立条件は通常会員数の過半数」となりました。我が学会の実情から言いますとこの過半数は相当大きな数であり、総会成立が危惧される数であります。このような状況を踏まえて、前回には、会員の皆様に積極的に「参加」の呼び掛けを行いました。その結果、皆様のご協力を頂くことができ、過半数を上回る参加数に達し、総会は無事成立致しま

した。

総会成立の困難な事情は、今後とも続くものであり、会員の皆様には、こうした状況をご理解して頂き、次回の総会におきましても、前回に増しまして総会参加のご協力を頂きますよう、心からお願い申し上げます。

なお、総会参加の形態は、総会会場に直に出席して頂くのが最も望ましいものですが、都合でそれがご無理な場合には、総会への意思表示を文書によって示して頂く方法もあります。それで、今回は「総会参加票」の葉書またはFAXなどの文書を提出して頂くことをもって、総会参加と意思表示とさせて頂きました。次回も同様な形で実施したいと考えておりますので、重ねてご協力をお願い申し上げます。

なお、総会参加票の葉書は春季大会の数週間前にすべての会員の皆様に郵送される予定です。

## 2000年度秋季大会の報告

日本気象学会2000年度秋季大会は、京都テルサ(京都市南区)を会場として2000年10月18日(水)～20日(金)に行われた。参加者数(前納登録者と当日受付者の合計)は695名(一般会員414名, 学生会員168名, 非会員113名)であった。

2日目午後には、京都テルサ・テルサホールにおいて山本・正野論文賞が日暮明子会員と藤原正智会員に、堀内賞が小池俊雄会員に、日本気象学会奨励賞が加藤廣会員と黒良龍太会員にそれぞれ授与された。授賞式のあと、廣田理事長による学術講演と山本・正野論文賞及び堀内賞の受賞記念講演が行われた。引き続

き、大会シンポジウム「人工衛星からの大気観測～その歴史的展開～」が行われた。

一般講演の発表申込み件数は414件と初めて400件を超え、これまでで最も多くなった。その内訳は口頭発表が267件、ポスター発表が147件であった。

会期中およびその前日と翌日には、個別のテーマによる研究会や講演会が5件開かれた。

最後に、今大会事務局として大会準備・運営にご尽力頂いた大阪管区気象台、京都大学をはじめとする関西支部の皆様へ深く感謝の意を表します。

2000年12月 講演企画委員会